



さとのかぜ

No.196号

千葉県いすみ環境と文化のさと

2016年7月5日発行

編集・発行 千葉県いすみ環境と文化のさとセンター

指定管理者 (一財) 千葉県環境財団

〒298-0111 千葉県いすみ市万木 2050 番地

TEL 0470-86-5251 FAX 0470-86-5252

URL <http://www.isumi-sato.com/>



2016/7/2 鴨川市



2016/4/24 ヤマトグサ(雄花)



2015/4/29 ヤマトグサ(雌花)

写真のヤマトグサ(ヤマトグサ科)は植物図鑑で有名な“牧野富太郎”らが、新種として命名、発表したことで知られる、日本固有の植物で、関東以西に分布します。花は雌雄別で、写真のとおり特徴的なものです。花期には花の付く茎を立ち上げますが、主に地表を匍匐(ほふく)して生育しています。

千葉県 RDB*の確認地点図から、県内の本種の分布は極めて限定されていることが推測されます。私的には、2014年6月に初めて観察し、その後複数の生育地に出会うことができましたが、特定の流域のかつ狭い地域に留まります。生育環境は、写真のような溪流の水際や路傍の草地でした。増水などの自然の力で乱されることと、路傍の草刈という人為により乱されることとの違いがありますが、地表を匍匐(ほふく)している本種は、他の植物に覆われてしまわない環境が必要なのでしょう。路傍の生育地では、草刈で本種も刈り取られていたことにショックも受けましたが、生育の手助けになっているはずで、千葉県 RDB*では減少理由としてシカの食害が指摘されています。砂岩泥岩が露出するたいへん滑りやすい溪流の水際は、シカの食害を受けづらい環境なのだと思います。

* 千葉県レッドデータブック改定委員会編. 1999. 千葉県の保護上重要な野生生物 - 千葉県レッドデータブック - 植物・菌類編 2009年改定版. 千葉県環境部自然保護課

目次 1・ヤマトグサ 2・センターの畑 3・自然の力と上手につき合う暮らし方 4・夷隅の信仰・風俗・祭り・伝統など⑩
7・花ハスとれんこん 8・南房総の「食」について⑤ 9~10・行事報告 11・行事案内 12・センターの生き物たち

センターの畑～サヤエンドウの話～

センターの畑では、成長過程の観察、イベントの材料として季節に応じた野菜を栽培しています。本号では鮮やかな彩で料理を引き立て、季節感あふれるサヤエンドウを取り上げます。

●サヤエンドウの種類

・絹さや（きぬさや）

長さ5～7cmほどでさやが薄く、皮が黄緑色のサヤエンドウです。実が小さく若い状態で収穫します。シャキッとした歯触りでほのかに甘味があります。煮物や炒め物、汁物などによく合います。

・スナックエンドウ（スナックエンドウ）

肉厚でさやがふっくらとしていて、中の大きめの豆をさやごと食べます。長さ7～8cmほどで、さやはやわらかくて歯触りがよく、おつまみやサラダ、和え物、天ぷらなどさまざまな料理に使えます。

・砂糖えんどう

「砂糖さや」や「さとうぎや」などともいわれ、絹さやを品種改良したものです。絹さやに比べてさやが厚めでふくらみがあり、豆も少し大きめです。さやはやわらかくて甘味があり、さやごと食べます。糖度が高いことが名前の由来だそうです。

・大型絹さや

さやが10cm以上になる大型のサヤエンドウです。絹さやを大きくしたようなサイズでさやは平たく、中の豆は小さめで歯ごたえがあり、炒め物や揚げ物などに適しています。

●サヤエンドウの特徴と働き

サヤエンドウは、美容や風邪予防に効果のあるビタミンCが豊富で100gあたり60mgあり、レモン果汁よりも、10mgも上回るそうです。それは、ビタミンCがもっとも多い若い時期に収穫するためだと言われています。そのほか、エネルギー代謝や疲労回復に効果的なビタミンB群や整腸効果が期待できる食物繊維も豊富に含みます。

さらに、旨味成分のグルタミン酸が多いのも特徴です。100gあたり210mgあり、野菜の中でグルタミン酸が多いとされているトマトの230mgに次ぐ含有量で、脳の働きを活性化させる働きがあるとされています。

また、サヤエンドウには、成長期に欠かせ

ない必須アミノ酸であるリジンも含まれ、身体の組織を修復し、体の成長を促進するほか、疲労を回復させる作用もあるとされています。

●センターのサヤエンドウ（絹さや）

センターのサヤエンドウは、事前に苦土石灰・完熟牛ふん・化成肥料を施した畑に、幅90cm、高さ10cmの平畝を作り、株間30cmで一か所3粒ずつ播きました。なお、種はセンターで自家採種したものです。



種まきは11月上旬に行ないましたが、種まきが早すぎると、大きくなりすぎて冬に

冷害を受けやすくなることから、種をまくタイミングが上手に育てるポイントとされています。種まきから約2週間で出芽し、つるが少し伸びた状態で年を越しました。

2月中旬に、細いつるが風に振り回されて折れないように、防風と防寒も兼ねて、株の北側に細枝のたくさんついた笹竹を立て、さらに本支柱を立てました。



春になると順調に生長し、4月上旬に可憐な花を付けました。また、花が咲いた時とさやがつき始めた時に化成肥料を株元周辺に追肥し同時に土寄せを行いました。

4月下旬になると収穫の時期を迎え、来園された方に収穫体験をしていただき喜んでもらいました。



文：Y. T.

参考：「最新園芸大辞典」誠文堂など

自然の力と上手に付き合う暮らし方～その①～

13年前、退職後は自然豊かな地域で暮らそうといすみ市に居を構えました。当時はまだ夷隅郡岬町の時代でした。

あたらしい家はできるだけ自然環境を生かし、省エネルギーにするための様々な工夫をしました。



筆者自宅。屋根中央のガラスは屋根で受けた空気をさらに高温にする装置。屋根周囲はソーラーパネル

●《熱気を逃がし、涼風を呼ぶ》—暑さ対策

- ① 冬至と夏至の太陽の入射角を計算し、冬の日差しは室内に入るけど夏の日差しをカットする軒にしました。
- ② 南側開口部には農業用遮光ネットを張ると室温はずいぶん違います。
- ③ 西日をカットするゴーヤのグリーンカーテンは収穫を兼ねて一石二鳥です。
- ④ 夕方には庭の水やりで散水します。緑が多ければ多いほど快適な空間になります。
- ⑤ 間取りと窓の配置は風の通り道を工夫しました。風が通れば涼しく感じます。
- ⑥ 農家のような高い天井は暑さ対策になります。
- ⑦ 屋根は断熱構造になっており、夏の日差しで熱くなった屋根の熱気をモーターで排気します。

●《風を通し、湿度を調整する》—梅雨時対策

- ① 防水仕様の網戸は雨を防いで風は通り抜けます。雨の日でも窓を開けていられるので快適です。
- ② 調湿のために床下に木炭を大量に保管してあります。
- ③ 床も壁も建具もすべて木造です。木には調湿機能があります。

●《暖気を呼び込み、逃がさない》—寒さ対策

- ① 冬でも日差しが入れば室内は暖房いらず。
- ② 屋根には空気の通り道がセットされています。屋根で受けた太陽熱で暖められた空気を床に流し、床下のコンクリに蓄熱して

おきます。朝晩はその熱が放熱されて暖房替わりです。OMソーラーというシステムを採用しました。

- ③ 室内の熱を逃がさないことが大切です。高気密・高断熱仕様。窓はペアガラス。雨戸、障子、カーテンで室内の暖気を逃しません。

●自然エネルギーを使い、無駄を省く

ガスを使わないオール電化生活です。

- ① 太陽光発電（3kw）で電力料金の収支は年間でプラスです。お湯は深夜料金のエコキュート利用。
- ② ソーラークッカーや薪ロケットストーブで調理すると燃料費はかかりません。ソーラークッカーは災害時対策としても有効です。お湯なら簡単にわかきます。
- ③ 炊飯や洗濯は早朝電気料金を使い、スイッチ付きコンセントでTVなどの待機電力をカットしています。
- ④ 玄関灯など外灯はセンサーライトにしています。もっとも夜間に訪ねてくるのはタヌキやアライグマですから、最近はOFFにしています。

●今や水は貴重な資源

利根川水系の水も利用した水道料金は高い。庭の植物に散水などすれば基本料金をすぐ超えてしまいます。

- ① 雨水タンクが4つあり、散水など雑用水に使います。災害時には貴重な水源になるはずです。
- ② 台所・風呂・トイレの排水は高性能浄化槽で飲料に使えるほどに浄化されるはずでしたが、とりあえずこれも雑用水として再利用しています。



雨水タンク

- ③ 余分な雨水はそのまま排水溝に流さず、地下浸透枘を使ってできるだけ地中に戻します。
- ④ 米のとぎ汁・牛乳の洗いは、保管していると乳酸菌発酵してくるので液体肥料として使います。
- ⑤ 麺類のゆで汁は食器などの洗剤として役立ちます。

⑥ ラーメンや煮物の残り汁は 100 倍に薄めれば肥料になります。

⑦ もちろんトイレは節水型です。

立地の関係上、この地方特有の井戸水や天然ガスの利用ができないのが残念です。

大地震などの災害があった場合、飲み水の緊急確保はペットボトルや給水車に頼るのではなく、井戸水が利用できると便利ですね。どこのお宅に井戸水があるのか、飲用に適さない井戸水をどう浄化すれば飲めるようになるのか、市は事前に周知徹底しておいてほしいものです。

我が家の場合、雨水タンクの水をろ過した後、ソーラークーラーで沸騰させれば飲用になるはずですよ。

また、地震で崩壊しない家が地震で死なない家です。柱構造ではなく壁構造の工法で建てました。かなり頑丈な造りですが、それでも地盤もろとも地滑りしたらおしまいです。

津波に対応でき、洪水や地震にも対応できる土地ってどんな場所でしょう。縄文人が住んでいた場所がそのヒントになります。

想定外のことばかりの昨今、安全な場所などわかりっこありませんが、13 年前の知識で最善の場所を選んだつもりです。

家から見える景色も素晴らしいし、今のところ移住してとても良かったと思っています。

このまま何事もなく過ぎることを望んでいます。

文：川口 和也

夷隅の信仰・風俗・祭り・伝統など（11）～万喜城跡～

地理

万喜城（現在の地名表示は「万木」だが、史料上は通常「万喜」とされているので「万喜」とする）は、夷隅川中流域の右岸（いすみ市万木字城山）標高 65～85m の北西に突き出した丘陵の先端部を中心に築かれている。東・北・西の三面は夷隅川が蛇行しながら取り巻き、南方向に丘陵部の尾根が続き、天然の要害となっている。



万木丘陵



西側の風景

城内の最高所にあるマス台（櫓台）と呼ばれる場所からは、眼下に田園地帯が一望でき、西側は大多喜の山々、東側は太東崎と太平洋を望むことができる。また、冬季の天気の良い早朝には富士山も見ることができる。現在は、万木城跡公園として整備され山上まで舗装道路となり、マス台には城を模した展望台がある。



東側風景

歴史

万喜城（万木城、万騎城、満喜城、とも）は上総土岐氏の居城として知られているが、



展望台

伝来している資料も少なく、城の歴史や土岐氏については謎の部分が多い。万喜城が資料上確認できるのは永禄

8 年（1565）「金灌頂私記」奥書（元行寺蔵）である。

上総の国は南北朝期以降、上杉氏の支配下であったが、上杉氏と鎌倉公方が対立するようになると、鎌倉公方の意を受けた上総武田氏が 15 世紀中頃入国し、その後、美濃土岐氏の流れをくむと思われる万喜土岐氏が入国したと推定されている。

土岐氏の動向が明確となるのは 16 世紀後半である。土岐氏は安房里見氏と婚姻関係を結ぶなど、友好関係を築きながら夷隅の東部（いすみ市）に勢力を広げていったようである。里見氏が永禄 7 年（1564）の第二次国府台合戦（対北条）に敗れると、しだいに里見氏から離反し、上総まで勢力を伸ばしつつあった小田原北条氏の配下となった。その結果、北条方の最前線となり、里見氏方の小田喜正木氏や長南武田氏からたびたび攻撃を受けたが、

落城することはなかった。天正3年(1575)に北条氏から大量の兵糧米が搬入されている。

難攻不落を誇った万喜城も、天正18年(1590)の豊臣秀吉の小田原城攻めによる北条氏滅亡と運命を共にした。その後、徳川家康の家臣本多忠勝が入城するが、忠勝の大多喜城入城に伴い万喜城は廃城になったと言われる。

城の構造

城の遺構は、長軸で1000m、短軸で800mである。城は山上の曲輪を中心とした主郭群、南方向に延びる尾根部、主郭東麓から夷隅川までの平地部となる。主郭群はⅠ郭、Ⅱ郭、Ⅲ郭からなっている。

Ⅰ郭は「倉の台」呼ばれ、マス台とともに城の最高所にあり、下段のⅡ郭との間には堀跡が確認され、さら



倉の台

に南側斜面には大きな堀や切岸(地形を垂直に削る。)が存在している。倉の台からは炭化米が出土している。地元の人には、「焼き米」としてよく知られている。焼き米は兵糧が戦火で焼かれたが、大量であったため燃え尽きずに一部が炭となって残ったものと考えられている。今でも地表にみられる。



焼き米(炭化米)

倉の台の北側にある空間がⅡ郭である。北側にはマス台と呼ばれる高さ7mほどの櫓台を



Ⅱ郭の広場と櫓台



井戸

平成15年の発掘調査で多数の柱穴が出土して

設けていた。ここには現在、天守閣風の展望台が建っている。また、西南部の窪地に井戸が掘られているが、現在も水を湛えている。

Ⅲ郭は、公園の上の駐車場と一段高い稲荷神社のある平坦地が推定されている。

おり、何らかの居住空間と考えられている。西側は垂直の切岸となっており、登ることを不可能にしている。

Ⅲ郭から北は、北に延びる尾根を利用して櫓台や切岸で防御線を作り出し、先端(浅間山)の櫓台状を物見として利用していたものと思われる。

倉の台より以南に延びる尾根と支尾根は約1km続いているが、馬の背状の尾根を「堀切」の多用と、垂直に削り落とした「切岸」を連続して造成し防御



垂直の切岸



尾根筋

を高くしている。特に、城外に向いた尾根の東側、もしくは南側は徹底して切岸を造り出している。もともと馬の背状の細尾根を垂直に削り落とすため、頂部は場合によっては2~3mの幅しかないところもあり、屏風

を立てたようになっている。尾根から支尾根が派生する結節点は、堀切を入れるか、切岸を造り、支尾根に取りついた敵が登れないよう処理し、結節点は尾根の頂点となることが多く、ここを削平して防御の拠点としている。また、各尾根の先端は垂直に削り落とし、攻めにくい構造がつくられている。この尾根は現在小鳥の森として整備され、ハイキングコースとなっている。



権現城跡・現八幡神社



左：万喜城・右：浅間山

当城の北西の夷隅川をはさんだ対岸の松丸字向台には、天正3年(1575)に小田喜正木氏(大多喜城)が万喜城攻めにあたり築いた権現城跡(八幡城跡・現八幡神社)がある。権現城の東南隅にあった櫓台(道路拡張工事により消滅)から、万喜城の先端の浅間山の櫓台まで、直線距離で500mしか

い。権現城直下には蛇行する夷隅川が流れ、天然の水堀の役割を果たしており、正に向城（陣城）に相応しい位置といえる。また、正面を万喜城に向け、背後には角馬出（外郭塁線上に突出して設けた矩形の平地形状を持つ堡塁状の小曲輪）と見られる出入り口（虎口）遺構が存在し、戦国末期の特徴がみられる。

城下集落

主郭東麓の裾部から夷隅川までの平坦地は、山裾から川に向かって延びる二本の堀によって区画される空間があり、防御性が高い「内宿」という字名が残る。この字名が示すとおり、ここは城下集落の中心部で、最奥部には土岐氏の日常の居館、その前面に上級家臣の屋敷があったものと推測される。内宿の北西には筑波宿、南東に伊南宿があり、三者は道路に沿って並ぶ形となっており、この三つの集落が城下の中心地であったと言える。現在使用されている道路は、城が機能した時代とほぼ同じ場所にあったと想定されている。また、内宿と城を挟んだ反対側の西側には伊保宿、上宿、北側には下宿、横宿があった。現在は集落や水田が広がる景観となっている。



内宿

城下の寺院

城下にはいくつかの寺院がある。城の西麓の南端には土岐氏の菩提寺である海雄寺があり、土岐氏三代（頼元・為頼・頼春）の位牌と木像、江戸期に作られた全長5.16mの銅造釈迦涅槃像（県指定有形文化財）が安置されている。



海雄寺

西麓の中央付近にある上行寺の過去帳には武田氏関係の記載があり、同氏の菩提寺と伝えられている。また、東麓東南の三光寺には北辰妙見大菩薩（妙見尊）が祀られているが、

飯縄権現や土岐氏の念持仏のひとつである愛宕権現も祀られ、共にいすみ市指定文化財である。



妙見尊

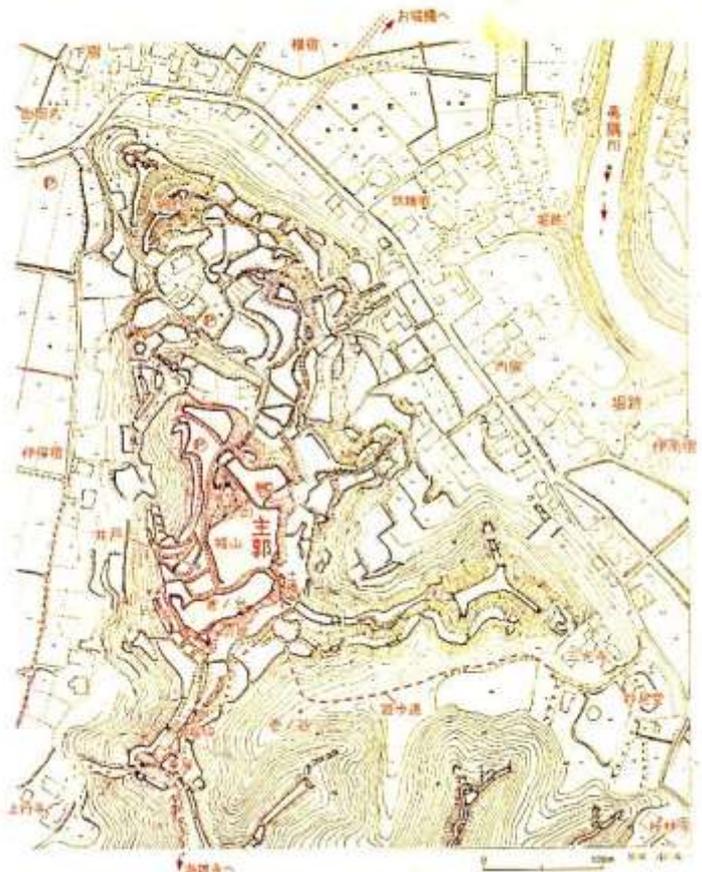
また、山門は享保年間の（1716～35）頃の四脚門で、これもいすみ市指定文化財となっている。同じく東南にある桂林寺は土岐氏内室のゆかりの寺と伝えられている。

これら宿や寺は、城跡のある丘陵を取り巻くように蛇行する夷隅川によって防御された構造となっている。

参考 夷隅町史（平成16年）
嶺島英寿氏資料

文：M. O.

万喜城縄張図(主郭部分)



いすみ市郷土資料館 H22 企画展「万喜城」より

花ハスとれんこん

●はじめに

ハスは、花を觀賞する花ハスと地下茎(レンコン)を収穫する食用ハスに大別することができます。両者は、まったく異なる特徴をもっています。ここでは、これからシーズンを迎える花ハスと、食用ハスの特徴について紹介します。

●花ハス

千葉県いすみ環境と文化のさとセンターにも、およそ9畝歩(≒270坪)のハス田があります。6月下旬から7月下旬まで見頃です。ぜひ足をお運びください。



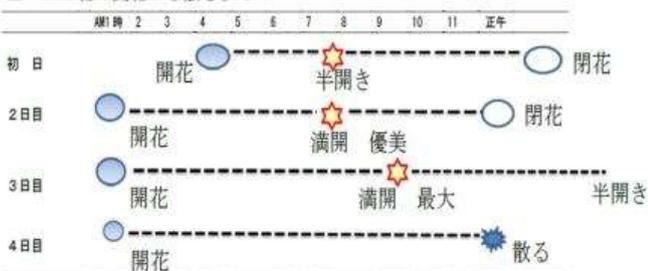
一般的に觀賞用の花ハスは、数百種類もの品種が普及し、大型種の「大賀蓮」や小型の品種「茶碗蓮」などが有名です。

この他にも、一重咲きから八重咲きのもの、ピンクや白、黄色い花など、実に様々な品種があります。また、食用ハスより花数が多く、大きな花を持つという特徴があります。

●花の咲き方

ハスの花は4日間、開閉を繰り返したあと散ります。

■ハスの花の開花から散るまで



①初日は、夜明けから開花し始め、午前8時には開花が終わります。完全には開かず、昼頃から閉じ始め、夕方には花卉を閉じてしまします。

②二日目は、深夜1時ごろからゆるみだし、午前8時には満開となります。花容が最も優美です。そして10時ごろから閉じ始め、正午にはつぼみの状態に戻ります。

③三日目も、深夜1時ごろから開き始めます。9時ごろには完全に開き、花径が最大となります。昼ごろに閉じ始めますが、完全には閉じず、半開状態のつぼみで終わります。

④最終日は、午前から散り始め、花托(か

たく)だけが残ります。

●食用ハス

食用ハスの品種は、数十種類しかありません。地下茎(レンコン)の部分が肥大するのが最大の特徴です。大きな葉のわりに花が小さく、ほとんど一重咲きです。



レンコンは早春、温度が上がってくると発芽を始めます。夏の高温時に急成長し、盛んに光合成を行い、デンプンを地下茎に送り、

レンコンを肥大させます。そして8月までに肥大はほぼ終わり、出荷が可能な大きさになります。

●健康食品

ハスは、中国では漢方薬として珍重されています。日本でも、徳川家康がその薬効に着目していたという話が残っています。

まず着目されるのは、ビタミンCの含有量です。レンコン200gで、一日に必要なビタミンCをまかなえます。レンコンに含まれる鉄分の働きもあり、貧血を予防し、肝臓の働きを助ける効果があるとも言われています。さらにレンコンには、食物繊維が多く含まれています。腸内活動を活発にし、高血圧予防や発ガン性物質の排泄、コレステロール低下などの効果が期待できます。また、花粉症やアレルギー予防などに役立つとも報告されています。

表1 ハスの部位とその名称と効能等

部位	名称	効能等
果実(種子)	蓮実(れんじつ)	強壯, 止瀉, 止渴, 鎮嘔, 健子葉
子葉	蓮肉(れんにく)	胃, 多夢, 遺精, 下痢等
幼芽(胚芽)	蓮心(れんしん)	止血
種皮	蓮衣(れんい)	強壯, 收斂
葉	荷葉(かよう)	下痢, 止血, 食中毒等
葉柄と花托	荷梗(かぎょう)	解熱
花の蕾	蓮花(れんか)	活血, 止血
花托	蓮房(れんぼう)	止血, 瘀お血
雄しん	蓮鬚(れんしゅ)	止血, 強壯
肥大茎	藕(ぐう)	涼血解毒
地下茎の節部	藕節(ぐうせつ)	止血, 吐血, 鼻血, 血尿等
レンコンの薬粉	藕粉(ぐうふん)	輕身延年の長寿薬

「良薬は口に苦し」という言葉があります。しかし、レンコンはおいしい野菜です。いろいろな料理で、健康増進してみてもいいでしょうか。

文：M. H.

参考資料

れんこん通信 Vol.N033、注目される健康機能性、疑惑の花蓮渡辺達三 1990年日本公園緑地協会、レンコン栽培から加工販売まで 沢田英司 2010年農文協

南房総の「食」について(5)～カツオのたたき～

本格的な夏の到来を迎える前に旬を迎えるカツオ。今年(2016年)は6月4日に勝浦で「第14回勝浦港カツオ祭り」と題して、イベントが行われた。その年一番早く取れる走りのカツオは「初鰹(はつがとお)」と呼ばれ、初夏を代表する魚のひとつである。カツオはサバ科の魚で北海道以南の太平洋側に分布する。料理方法としては刺身、煮つけ、なめろう。またはかつお節として加工される。その中でも今回は「カツオのたたき」を紹介する。「たたき」の意味は諸説あるが、「塩をふりかけて手のひらか包丁の背でたたく」や「強火であぶって、薬味などを乗せて、タレ味(酢など)を振り掛けて、味がなじむように上から「たたき」のでたたきと言われるようになった」など、ネットでは由来説明が見つかった。

今回はカツオの冊を300g用意した。冊をしょうゆ(大1)、みりん(大1)に30分つける。

その間に、野菜をカットしておく。用意する野菜はキュウリ、青じそ、ミョウガ、ショウガ、トマト、タマネギ。キュウリの切り方はまず、縦半分に真っ二つに切り、斜めに切ってゆく。ショウガはすりおろす。トマトは細かく切り、タマネギはスライスして使用した。トマトとショウガ以外の野菜には塩少々を振り、水でさらして絞る。

カツオの冊を30分つけ終わったら、焼き目を入れていく。わらの火が強火で具合が良いと聞く。串に刺して直接火であぶってもよいがフライパンで



かつおの味をひきたてる野菜



野菜を細かく切る



冷水で絞める

焼き目をつけてもよい。冊の表面にまんべんなく焦げ目がついたら、ビニール袋に入れ、氷と冷水の入った容器に入れ冷ます。

冷水で冷ましている間に今度はたれを用意する。たれは、酢としょうゆ(大1)、サラダ油(大2)、砂糖(小1)、塩(小1/4)をよく混ぜて作る。

冷水につけたカツオの冊を一切れ10mm程度と厚めに切り、皿に並べる。その上から用意した野菜をのせる。

そして最後にたれをかけ、ショウガのすりおろしを指先で軽く絞り、皿の隅におく。ショウガはカツオにのせて食べた、しょうゆにといて食べるのもよい。おろしニンニクの方がおいしいという方もいる。

別の食べ方も紹介する。「カツオの漬け丼」として食べるのもよい。カツオの冊を今度はやや薄く切り、カツオの切り身をしょうゆ(大1と1/2)、みりん(大1と1/2)、すりおろしたショウガ(小1/2)に10分ほど漬ける。青じそを千切りに、ミョウガは薄切りにする。どんぶりの器にご飯をよそり、千切りにした青じそを敷いた後に漬けたカツオの切り身を盛り付ける。その上にミョウガをのせる。

カツオのたたきは、夏の暑さで疲れた体にはさっぱりとして食が進む。紹介した二品は、見た目にも涼し気でお酒もごはんも進む料理である。

文：E. N.



冊を厚めに切ってゆく



盛り付け完成



夏野菜と相性が良い

《 行事報告 》

4月16日

万木城の歴史と里山の自然観察



大人13人、子ども5人の参加がありました。まずは館内でカントウタンポポとセイヨウタンポポの違いの解説、次いでカエルの鳴き声の違いもボイスレコーダーの鳴き声をもとに解説。センターの外に出ると、いろいろな植物の解説がたくさんありました。

午後からは万木城のお話し。戦国時代に落城したさい焼けたと思われる炭化米を、今も見つけることができます。みんなで探しました。山を下りて海雄寺を開放していただき、寝釈迦様を参拝。そしてセンターに戻ってくる自然観察と歴史の、1万1千歩の旅でした。

4月30日

米作り1・田植え体験をしよう



朝日を受けすがすがしいスタートでした。申し込みが多かったため定員を拡大、大人26人、子ども16人での田植えです。皆さんにはコシヒカリを植えていただきました。田植えは順調に、比較的早いペースで進んでいきました。アンケートには「素足で入る田んぼの感触が気持ち良かった」「春を感じられた」「農業の大変さが分かった」といった感想が寄せられました。

午後からは職員で、お飾りに使うキョウシンや餅つきに使うツキモチを機械で植えました。順調に育つことを願いつつ…。

5月5日

センター内ホテルの水路で生きものを探そう



こどもの日、子ども達の声がセンター中に響き渡る一日でした。大人12人、子ども7人の参加がありました。室内で観察方法などを説明した後、実際に水路でタモ網を使って生き物を捕まえました。大人も夢中で魚取りをしていました。童心に返って楽しむのも良いことですね。

ただ、魚を手で触ったことが無い子もいたらしく、網で捕まえても、観察用のケースに入れることができず、大騒ぎをする子どもも。何事も体験は重要ですね。

室へ戻って解説を聞き、色々と学んだ一日でした。

5月8日

岩船で磯の生き物観察をしよう



潮が引き、初夏の海風が心地よく、磯の観察にはとても良い日となりました。大人13人、子ども11人の参加がありました。講師は現役の海女さんをお願いしてあります。磯に入ると子どもたちも、大人たちも生き物探しに夢中です。

網ですくったり手で捕まえた生き物たちをバットに入れ、講師から詳しい解説を聞きました。色々な解説、実演など海女さんならではの観察会となりました。観察終了後は生きものたちを海に返しました。

<p>5月14日</p>	<p>落花生の栽培体験をしよう</p>
	<p>8家族16人の参加がありました。この方々が草むしりを含め最後まで自分の植え付けたものを栽培します。そして秋の収穫を迎えるのです。</p> <p>畑へ行く前に、図書室で品種、栽培方法、肥料等の説明をしました。そして鍬やレーキなどの農具をもって畑に移動。各自マルチ(黒いビニールシート)を張り、穴の空いているところへ、種を横にして3cmぐらいの深さに差し込み覆土します。深く埋めすぎると発芽は悪くなるようです。数度の草取りが重要です。これから頑張りましょう。</p>
<p>5月22日</p>	<p>太東の岬で海辺の自然を観察しよう</p>
	<p>大人13人の参加がありました。朝方は雲の多い天気でしたが、行事開催時には、すっきりと晴れ渡りました。</p> <p>太東漁港では、まず露頭において地質の話です。次いで山道を登りながら植物観察、そして展望台へ到着。ここでは一転して海のお話し。昔はアワビが豊富にとれたいすみ根(器械根)のことも解説しました。次は海岸線へ向かい、再び露頭の解説。砂浜を歩くと今までの道とは違う植物が観察できました。</p> <p>たくさんの植物観察、露頭の観察、海の話など、内容の濃い観察会となりました。</p>
<p>6月4、5日</p>	<p>センター内小川でのホタル観察①②</p>
	<p>センター内に生息するゲンジボタルの観察会です。今年は例年になく成虫の発生が早かったようでした。</p> <p>まずは明るいうちに現地確認。ホタルの生息している環境を見ていただきました。建屋に戻りホタルの生態や生活史、♂と♀の違いなどを説明しているとすでに外は暗く、飛翔が始まっていました。</p> <p>樹冠の間に飛翔して点滅するホタルの光。発光間隔は、約4秒です。ゆっくりした時の流れを感じていただけたでしょうか?</p>
<p>6月25日</p>	<p>サフランの球根で飾り物をつくろう</p>
	<p>大人9名の参加がありました。サフランは南ヨーロッパ原産といわれ、土や水が無いところでも、球根だけで花を咲かせる不思議な植物です。</p> <p>サフランの花の中央にある赤いめしべは、鎮静、鎮痛など多くの薬効があると言われています。古くから高値で取引されたスパイスですが、可憐な花を咲かせます。古代米のわらを使って、船の形をイメージした入れ物を作り、そこに球根を入れて完成。11月にはきれいな花も楽しめる置物を作ることができました。</p> <p>試食もあり、有意義な1日を過ごせたことと思います。</p>

☆行事内容やセンターの日常を、センター日誌 (<http://isumisato.exblog.jp/>) にてご覧いただけます。

これからの行事案内

7月 (5月1日から受付開始)

●ハス観賞週間

12日(火)～24日(日) 随時 見学自由
日の出と共に開花するハスの花を観賞
しましょう。どなたでも大歓迎！
この前後の週も見ごろのはずです。



●海辺の植物観察

18日(月)9:30～12:00 定員 20名

小雨決行

場所:いすみ市の海岸
海辺の植物を観察しましょう。
持ち物:飲物、帽子、雨具



●センター内ホテルの水路で生きものを探そう

24日(日)、30日(土)9:30～11:30
各定員 20名 雨天中止 ゲンジボタル
が生息する水路で、水辺の生きもの
を観察しよう！

持ち物:水の中で履く靴(サンダルは不可)、汚れてもいい
服装

●夏の星座観察

31日(日)18:30～20:00 雨天プログラムあり
(定員となっています)

夏の大三角形など夏の夜空の星座
観察をしましょう。

持ち物:飲物、虫よけスプレー



8月 (6月1日から受付開始)

●スペシャルウィーク “さとの夏遊び”

6日(土)～12日(金)当日参加受付
詳細は7月中旬までお待ちください。
ガサガサ、水てっぽうなど、さとの
夏遊びをしましょう！
持ち物:飲物、虫よけスプレー



●夏の夜の生き物たち

20日(土)18:30～20:30 定員 20名 雨天中止
暗くなってくると、身近な生き物たちはど
こにいるのかな？

観察しよう！

持ち物:歩きやすい服装

虫よけスプレー、懐中電灯(サンダル不可)



9月 (7月1日から受付開始)

●米作り2・稲刈り体験をしよう

(田植え参加者で定員となりました)

4日(日)9:00～12:30 小雨決行

春に植えた稲には穂がいっぱい！

皆で刈り取りましょう。

▲参加費:子ども 200円 大人 300円

持ち物:長袖の服、帽子、タオル、
軍手、長靴、弁当、飲物



●米作り3・お飾り用の稲刈り

11日(日)9:00～12:00 定員 10名 雨天順延 13日

お飾りなどの藁細工に使う稲の
刈り取りです。お飾りつくりの予
約可能。畑の収穫体験あり。

▲参加費:200円

参加対象:大人

持ち物:長袖の服、帽子、タオル、軍手、長靴、飲物



10月 (8月2日から受付開始)

●いも掘り・焼きいもにチャレンジ!

1日(土)10:00～14:00 定員 20名 雨天中止

センターの畑でいもを掘って、もみ
殻で焼きいもをしましょう。

▲参加費:300円

持ち物:新聞紙、アルミホイル、飲
物、弁当、長靴、軍手



●草木染め体験

15日(土)10:00～15:00 定員 20名 小雨決行

自分でデザインをして、布を自然の
色で染めてみましょう。

▲参加費:1,000円

持ち物:剪定バサミ、作業できる服装、
弁当、飲物



●竹かご教室(入門) ①②③④

22(土),23(日),29(土),30(日) 10:00～16:00 定員 20名

竹取り、ひご作りから始めて4回終了
までに完成させましょう。

参加対象:高校生以上、全4回参加
できる方

▲通し参加費:1,000円

持ち物:竹用ナタ、竹ひきノコ、植木バサミ、
膝あて、軍手、弁当



11月

●第20回 さとの文化祭

19日(土)～27日(日) -21日休館 9:00～16:30

夷隅郡市小学生の絵画工作や一般の方の創作作品を
展示。

作品応募:センターにお問合せ下さい

- ✓ 申し込み方法は、電話、メール、FAX、直接セン
ターで申し込む の4通りです。
- ✓ 申し込み後、参加できなくなった場合はお早めに
必ずご連絡下さい。
- ✓ 天候等により予定を変更する場合があります。ホー
ムページやブログでも発信します。

センターの生き物たち



タマムシ/タマムシ科

幼虫はエノキ、ケヤキ、カキ、サクラ類の枯木(材)を食べ3年くらいかけて成長します。成虫はよく晴れた7、8月の昼間にエノキなどの木の上を飛ぶ姿が見られ、その羽音で気づくことができます。背中中金緑色は見る角度によっていろいろな色に輝いて見えます。腹部は金赤色です。成虫はエノキなどの葉を食べます。倒木のある斜面林近くのディキャンプ場で見かけることもあります。もともと個体数は多くはない昆虫で、昆虫好きには宝物です。



ヒシ/ミソハギ科

学問の進歩によってアカバナ科からヒシ科、ミソハギ科へと分類が変わりました。一年生の水草で、富栄養化が進んだ水域で一面、本種の群落に覆われることがあります。3年前は、南の万木堰で多く発生しました。水底から水面まで2m程の長い茎に、菱形や丸い三角形で粗い鋸歯のある浮葉がロゼット状に広がります。夏に花弁4枚で直径1cm程の白い小さな花を咲かせます。なお、ヒシ類の果実は食用になり、英名ではwater chestnut(水栗)です。ヒシ類には実の堅いトゲが2本と4本とがあり、実の大きさが違うヒメビシ、オニビシ、トウビシなどもあります。

いすみ楊枝 —千葉県伝統工芸品—

センターでは、「いすみ楊枝」を県内外に広く紹介するため、毎月高木守人氏に実演をお願いしています。

- 日時** 毎月第3日曜日(9:30~16:00)
場所 ネイチャーセンター
講師 高木守人氏
参加料 材料費など実費いただきます
内容 楊枝・花入れ・茶杓作り など

編集後記

7月初旬から酷暑ですね。旬の夏野菜や果物を食べること、涼しい場所や時間帯に体を動かすことが私的な夏バテ防止策。増えた体重が同時に減ればともくろんでいます。畑の担当職員は夏も作業に精を出し、旬の野菜も作っています。ブログで畑の情報も発信していますのでご覧ください。

子ども達の夏休み期間には、“さとの夏遊び”をはじめとして、様々な行事を開催します。一緒に遊び、体験しましょう。閉園後の夜に行う「夏の星座観察」、「夏の夜の生きものたち」も予定しています。「夏の夜の生きもの達」は初開催です。担当者が鋭意プログラムを作成中です。ぜひご参加ください。 所長

行事への参加申し込み、お問い合わせは、電話(0470-86-5251)、メール(senta-sato@isumi-sato.com)、FAX(0470-86-5252)、または、直接センター事務室にお申し出下さい。定員のあるものについては、定員になり次第締め切らせていただきます。ご了承下さい。行事はネイチャーセンターに一度集合してから移動します。

- * お申込み時は、参加者全員の氏名、住所、年齢、電話番号をご記載ください。携帯電話がある場合は併記を。
- * メールやFAXでの申込みではセンターから返信が無い場合、送受信エラーを疑い、確認のお電話を下さい。
- * 行事申し込み後、都合によりキャンセルする場合は必ず早めにセンターまでご連絡下さい。

◆ ◆ ◆ 利用案内 ◆ ◆ ◆

休館日：毎週月曜日(月曜日が祝日の場合はその翌日)、12月29日~翌年1月3日

開館時間：9:00~16:30、入館料：無料

※当施設のご案内や解説などを希望される団体は、2週間前までにお申し込み下さい。